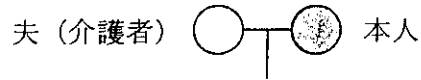


事例ケース3

家族構成



痴呆症状あり（要介護2→3：アルツハイマー）夫（70歳）と二人暮らしである。

介護者：夫。一日中、介護は夫が行っている。入浴、オムツの介助に対し、抵抗を示すことが多く、介護に工夫必要。

介護している夫が、本人が介護に抵抗を示したり、付きまとうことに対し、苛立ちを持ち、暴力をふるうことがある。近所の人や、デイサービスの利用を進める。「このまま介護を続けると、妻を殺してしまう。」との発言あり。

現在の本人の状態

元気で血色もいい。体に悪いところはない。週2回デイサービスを受けている。昔のことは、よく覚えている。歌を歌う事が好きで歌手の名前等は不明、覚えている歌の名前等覚えているものもある。しかし、TVの歌謡番組等はおとなしく見ている。

現状の介護とその対応

本人がおむつ交換をさせてくれないことが介護者にとって最も大変な事項である。また、処理についても同様。着る物を出して、着替えさせても着る順番がおかしく、どんどん着込んでしまう。言われたことはしないが、言わないことはする。火の始末ができないので一切、火の元は扱わせていない。たばこはとって吸うが、たばこ、ライター等は介護者がいつもかくしている。

夫がそばにいないと寂しいせいかもしれない。夫について回る。外出したい際には、夫を連れ回す。家では風呂に入らず、デイサービスの風呂が気に入っている。料理はすべて介護者（夫）が行っている。ホームヘルパーはあまり必要としていない。

介護者である家族の気持ち

現在、週2回のデイサービスを利用しているが、普段、農作業を行っている夫は、週3回デイサービスを願っている。

このケースは、痴呆のともなう問題行動、主に介護に対する抵抗（入浴・排泄）に対し、介護者である夫が介護に困難さを強く感じており、そのつらさから、本人に対して憎しみを感じていた。対応策として、週2回のデイサービスを利用することになったが、排泄の後始末等の日常生活面での介護にまだ苛立ちを感じている状態である。結果的には本人の意向を取り入れる介護を行えていない状態が伺える。

虐待の種類について

身体的虐待	言語的虐待	心理的虐待
-------	-------	-------

認定調査票（特記事項）

1 麻痺・拘縮に関連する項目についての特記事項

1-1 麻痺等の有無, 1-2 関節の動く範囲の制限の有無

()

()

()

2 移動等に関連する項目についての特記事項

2-1 寝返り, 2-2 起き上がり, 2-3 両足がついた状態での座位保持, 2-4 両足がつかない状態での座位保持, 2-5 両足での立位保持, 2-6 歩行, 2-7 移乗

()

()

()

3 複雑な動作等に関連する項目についての特記事項

3-1 立ち上がり, 3-2 片足での立位保持, 3-3 一般家庭用浴槽の出入り, 3-4 洗身

(3-3) 痴呆のため促す。

(3-4) 痴呆ため介助して洗ってもらっている。デイサービス利用。

()

4 特別な介護等に関連する項目についての特記事項

4-1 じょくそう, 4-2 片手胸元持ち上げ, 4-3 嚔下, 4-4 尿意・便意, 4-5 排尿後の後始末, 4-6 排便後の後始末, 4-7 食事摂取

(4-1) (イ) オムツ交換を嫌がり、便、おしっこで汚れたオムツを長時間つけているため局部が()ただれている。薬をデイサービスの時につける。

(4-3) 固いものは飲み込みにくい。

(4-3) 介護者がトイレに連れていこうとするがおしっこも便もでてないと言い張り、トイレにいこうとしない。オムツも使用。

(4-5) オムツ交換を嫌がり、なかなか交換させない。2、3日もおしっこ、便で汚れたオムツをつけている。

(4-6) そのままで夜も寝てしまう。週二回のデイサービスのときに交換する。衣類もその時のみ交換。

5 身の回りの世話等に関連する項目についての特記事項

5-1 清潔, 5-2 衣服着脱, 5-3 介護側の指示への反応, 5-4 薬の内服, 5-5 居室の掃除, 5-6 金銭の管理, 5-7 ひどい物忘れ, 5-8 周囲への無関心

(5-1) 日常的には行なっていない。能力も勘案すれば一部介助と判断。爪切りはデイサービスのときに行なう。

(5-2) 着替えは嫌がる。介護者の夫の言うことを聞かない。デイサービスの時着替えを行なう。

(5-4) 介護者が量、時間を管理する。

(5-6) 食事をしたことを忘れてしまう。

6 コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

6-1 視力、6-2 聴力、6-3 意思の伝達、6-4 指示への反応、6-5 理解

(6-3) お腹が空いたとか何処かに出掛けようとする事は訴えることができる。

(6-4) 痴呆で理解できないため介護が困難。介護者の言うことを聞かないため介護者は頭にきて暴力をふるってしまう

() ことが度々ある。

7 問題行動に関連する項目についての特記事項

7 行動

(ウ) 死んだ人がある様に思う。月に2、3回。

(ケ) オムツ交換、着替えを嫌がり、やらせない。

(サ) 出かけようと常に騒ぎ、車に乗ってドライブをしないと静かにならない。1～4回、1時間～1時間半、ドライブする。

(ソ) ガスの火をけせない。タバコの吸いかけをその辺に置いてしまう。

(チ) オムツ交換を嫌がりオムツに便、おしっこを3日、4日もつけたままで布団に寝たり、茶の間に座ったりで辺りを汚す。

8 特別な医療についての特記事項

()

()

()

(1) 最終診察日 平成12年1月20日

(2) 意見書作成回数 初回

(3) 他科受診の有無 無

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名（特定疾病または障害の直接の原因となっている傷病名については 1.に記入）及び発症年月日

1.脳血管性痴呆 発症年月日 平成9年8月

(2) 症状としての安定性 不安定

(3) 介護の必要の程度に関する今後の見通し 不変

(4) 障害の直接の原因となっている傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容
入浴、オムツの介助に対し、抵抗を示すことが多く、介護に工夫必要と思われます。

2.特別な医療

処置内容

特別な対応

失禁への対応

3.心身の状態に関する意見

(1) 日常生活の自立度等について

- ・障害老人の日常生活自立案（寝たきり度） 特記無し
- ・痴呆性老人の日常生活自立度 IV

(2) 理解及び記憶

- ・短期記憶 問題無し
- ・日常の意思決定を行なうための認知能力 判断できない
- ・自分の意思の伝達能力 具体的要求に限られる
- ・食事 自立ないし何とか自分で食べられる

(3) 問題行動の有無

- 有り
- 暴言、介護への抵抗、徘徊、不潔行為

(4) 精神・神経症状の有無

- 有り
- 失見当識 専門医受診の有無 有

(5) 心身の状態

- 利き腕 右 体重 kg 身長 cm
- 特になし

4.介護に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針

- 尿失禁、脱水
- 対処方針 入浴介助等による清潔の保持

(2) 医学的管理の必要性

- 訪問栄養食事指導、訪問看護

(3) 介護サービス

- ・血圧について 有り 降圧剤服用中
- ・嚥下について 特になし
- ・摂食について 有り 見守りが必要
- ・移動について 特になし

(4) 感染症の有無

無

5.その他特記すべき事項

オムツ、入浴介助に対して拒否的になることが多い。恒常的な介護がなければ、不潔になってしまう。夫と二人暮らしであるが、夫からの援助を受けることは困難

2. ヒアリング調査のまとめ

家族のインタビュー調査からは、行われてきた虐待は、放任、身体的虐待、経済的虐待という内容であることがわかった。

また今回の事例を詳細に検討したところ、加害者らは、要介護高齢者を虐待しているという意識がないことや要介護高齢者に対する憎しみが強いわけではないこと。そして、被害者である高齢者は、すべて痴呆性高齢者であるという共通点が示された。加害者も被害者も女性である割合が高く、要介護度も4,5と高いことが示された。

これまでの先行研究¹⁾によって高齢者の機能障害と虐待との関係の高さが示されてきているが、障害の程度と虐待の有無との関係については、必ずしも明確ではないようである。今回の調査対象者は、きわめて少ないため、虐待の要因に関する統計的な検討には、なじまないが、わが国の高齢者虐待の事例としては、今回のヒアリング調査の3例は、すべて無意図的な虐待と呼ばれる典型例であると考えられた。

第2節 医師が発見した高齢者虐待の事例

1. 被害者の概要

(1) 被害者の属性

表1にあるように、19名の高齢者の平均年齢は83.6歳であった。性別については、男性が4名(21.1%)、女性15名(78.9%)であった。高齢者虐待の被害者における女性の割合が高いことは、従来の研究と同様である(表2)

また、これらの対象者の家庭を構成している家族の人数は、平均で3.6人であった。同居している家族の詳細は、表3に示すとおりである。

要介護度別に見てみると表4のとおりに分かれ、要介護度が高い被害者の割合が高いことが示された。

ただし、4名が未だ介護保険の申請前であり、認定結果が存在しなかった。

表 1.1.1 調査対象者の年齢、家族人数、外出回数

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	度数
高齢者年齢	83.6	6.9	74	95	19
高齢者家族人数	3.6	2.1	2	10	19
外出回数	3.9	2.5	0	7	15

図 1.1.1 調査対象者の性別

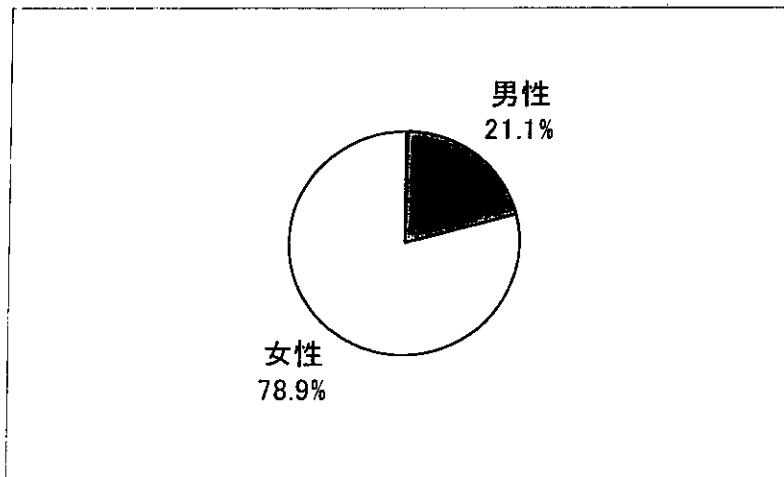


表 1.1.2 同居している人の続柄

同居している人の続柄	N
配偶者	3
息子	2
娘	1
配偶者と孫	1
息子と息子の嫁	4
娘と娘の婿	2
配偶者と息子と息子の嫁	1
息子と息子の嫁と孫	1
配偶者と息子と息子の嫁と孫	1
息子と息子の嫁と孫とその他	2
独居	1
合計	19

表 1.1.3 調査対象者の要介護度の分布

要介護度	N	
要支援	1	5.3%
要介護1	2	10.5%
要介護2	4	21.1%
要介護3	2	10.5%
要介護4	2	10.5%
要介護5	4	21.1%
未認定	4	21.1%
	19	100%

(2) 介護者の属性

主たる介護者の年齢は平均で 65.8 歳であった。また、介護を行っている介護者の続柄は、配偶者が最も多く 38.9%、息子の嫁 33.4%、娘 16.7%とつづいている。

表 1.2

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	度数
介護者の年齢	65.8	10.2	52	82	18

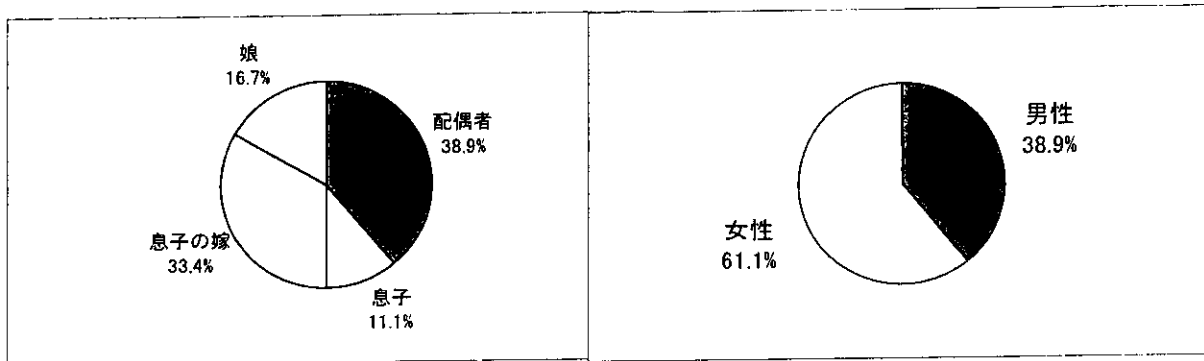


図 1.2.1

図 1.2.2

(3) 調査対象者の介護者の勤務状況

主たる介護者の職業は、職業を持っていない介護者が 12 名 (63.2%) で多く、職業をもつ介護者は、下表のような職業に就いている。また、一週間の外出状況については、表 1.3 に示したとおりである。

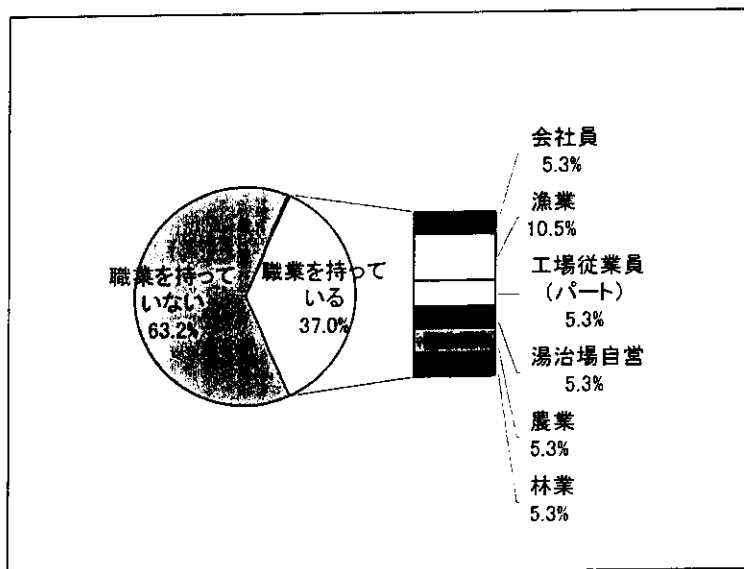


図 1.3 介護者の職業

表 1.3 介護者の外出状況 (一週間)

	平均値	最小値	最大値	準偏	度数
外出回数	3.9	0.0	7	2.50333	15

(4) 介護状況

介護者の外出時の介護状況は、介護サービス事業者が行うが 42.9%と最も多く、次にその他 35.7%、別居家族が代わりに介護を行うが 14.2%、同居家族が代わりに介護をするが 7.2%と続く。

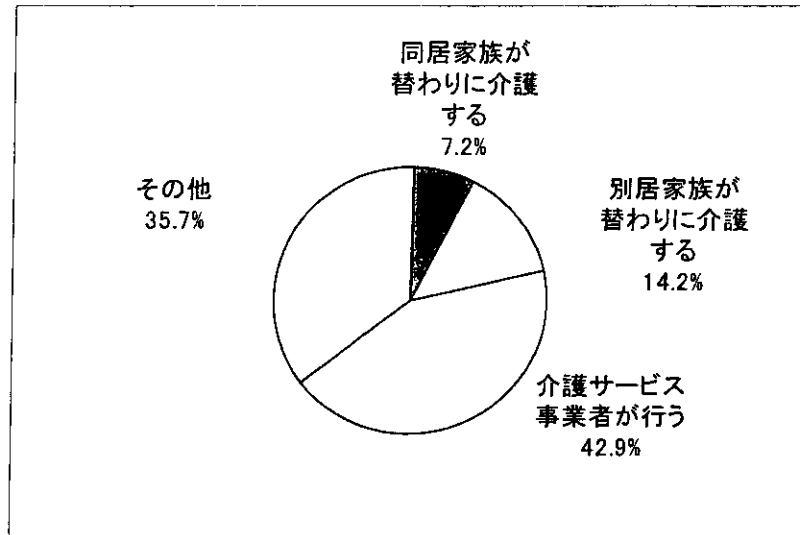


図 1.4 介護者の外出時の介護状況

5) - 1 介護者の介護負担

負担感があると答えた介護者が、過半数を超え、73.7%と多く、また負担感がないと答えた介護者は、26.3%であった。

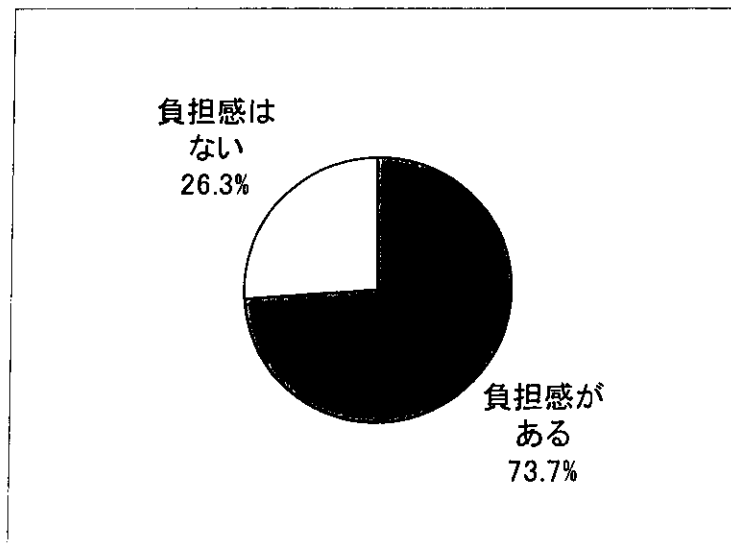


図 1.5.1 介護者の介護に対する負担感

5) - 2 家族以外の介護サービスの利用

介護サービスの利用に肯定的であるが 63.2%と多く、否定的であるが 36.8%となっていた。

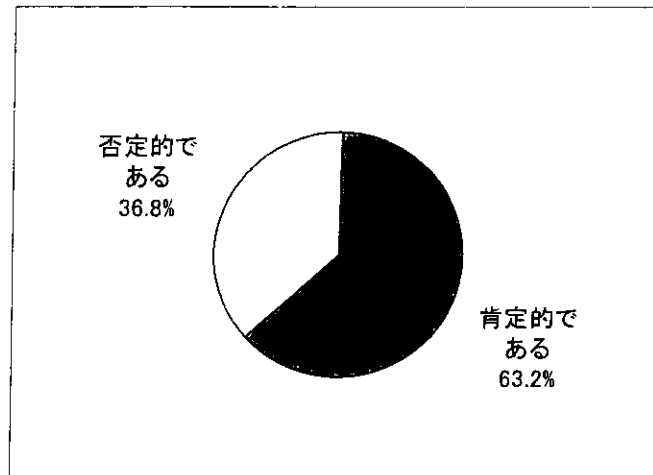


図 1.5.2 家族以外の介護サービスの利用に対して肯定的かどうか

5) - 3 介護者と介護サービス事業者との交流

交流があるが 53.0%、交流がないが 47.0%であった。

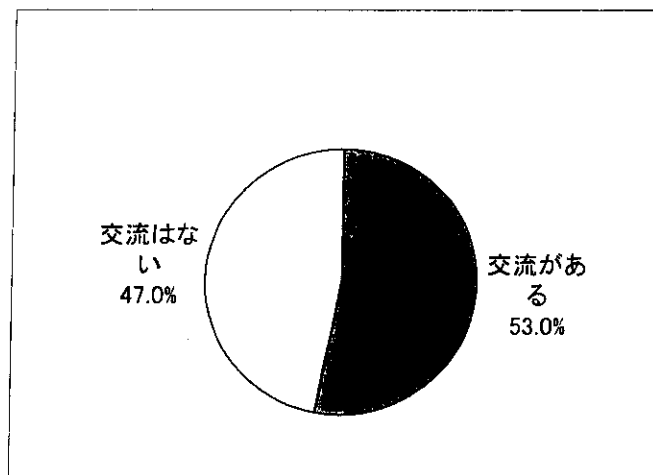


図 1.5.3 介護者と介護サービス事業者との交流

2. 観察調査の概要

調査員である医師が、対象である被害者の生活を観察し、「医療」、「社会生活」、「排泄」、「保清」、「環境衛生」、「高齢者に対する暴言」、「高齢者に対する暴力」、「高齢者に対する拘束」、「介護の不適切さ」についての各質問に対して回答を行なった。

1. 医療面に関する観察調査

1) 怪我の有無

対象者に怪我があるかどうかの質問に対して、「怪我がある」と判断したのは、19名中6名（31.6%）であった。

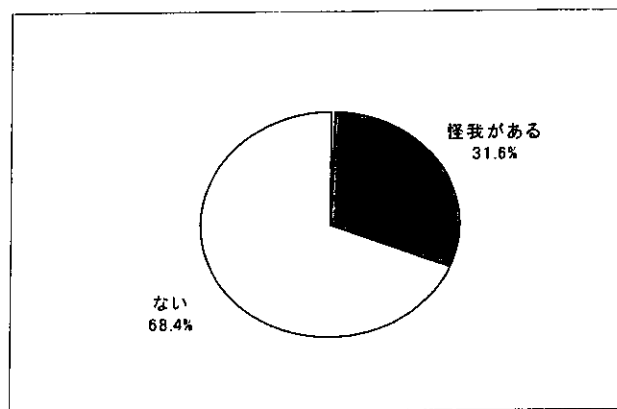


図 2.1.1 怪我の有無

また、「怪我がある」場合、怪我の手当てが行われているかどうかについては、「行われている」が6名中4名（66.6%）であり、残りの2名は治療が行われておらず、その理由としては、「本人は手当てを希望している」「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」であった。

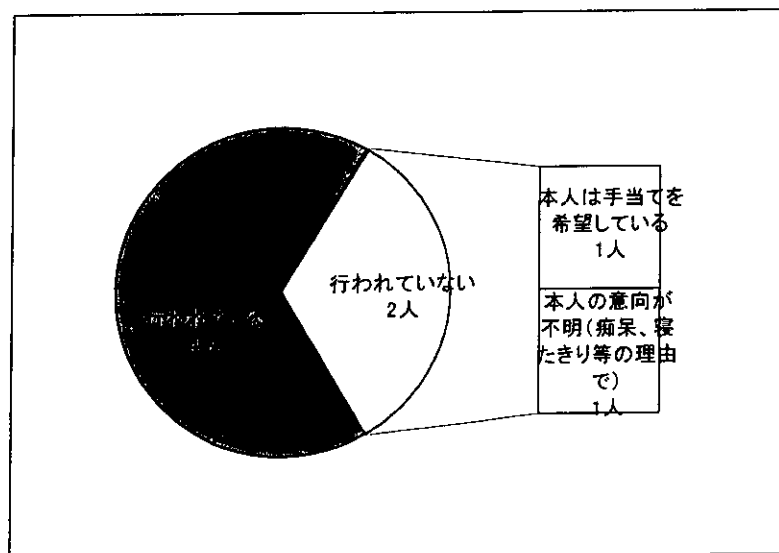


図 2.1.2 怪我の治療

2) 病気の有無

対象者に病気があるかどうかの質問に対して、「病気がある」と判断したのは、19名中18名（94.7%）であった。

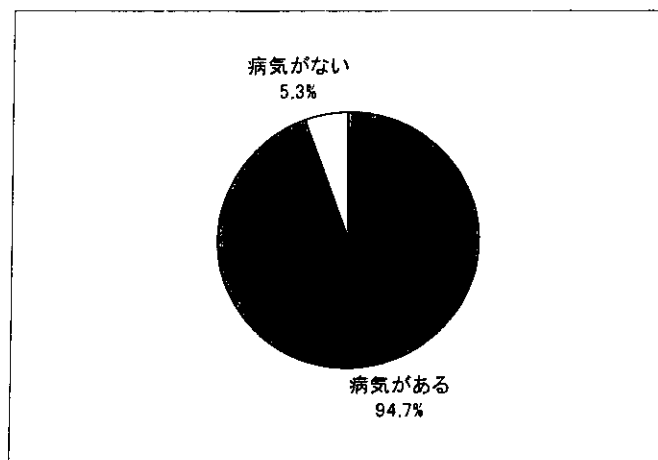


図 2.2.1 病気の有無

また、「病気がある」場合、病院に受診しているかどうかについては、「受診されている」が6名中4名（66.6%）であり、残りの2名は治療が行われておらず、その理由としては、「本人は手当てを希望している」「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」であった。

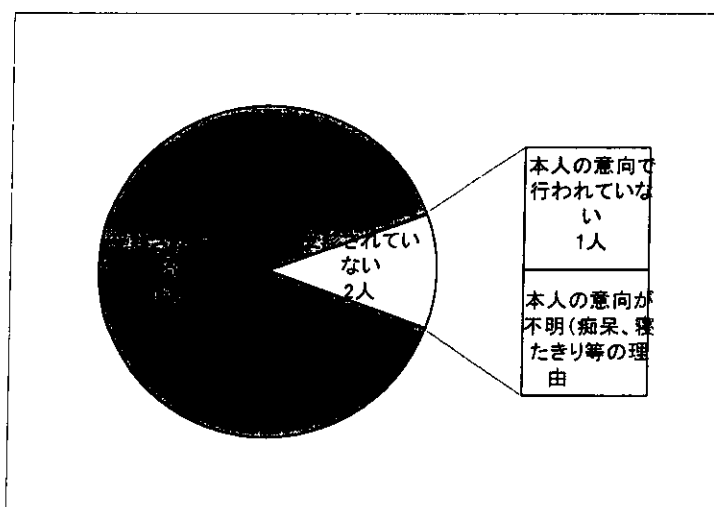


図 2.2.2 病気の治療

3) 投薬管理

対象者が投薬管理ができているかどうかの質問に対して、「管理ができている」と判断したのは、19名中11名（61.1%）であった。

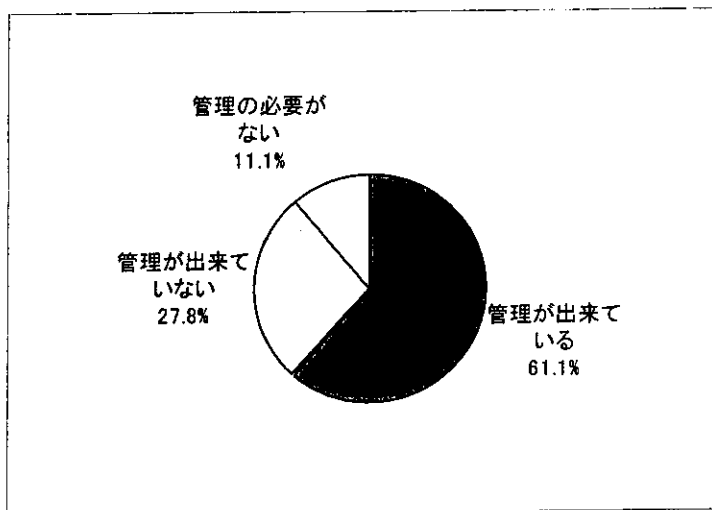


図 2.3.1 投薬管理の有無

また、「管理ができている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は投薬管理を希望している」1人「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」4人であった。

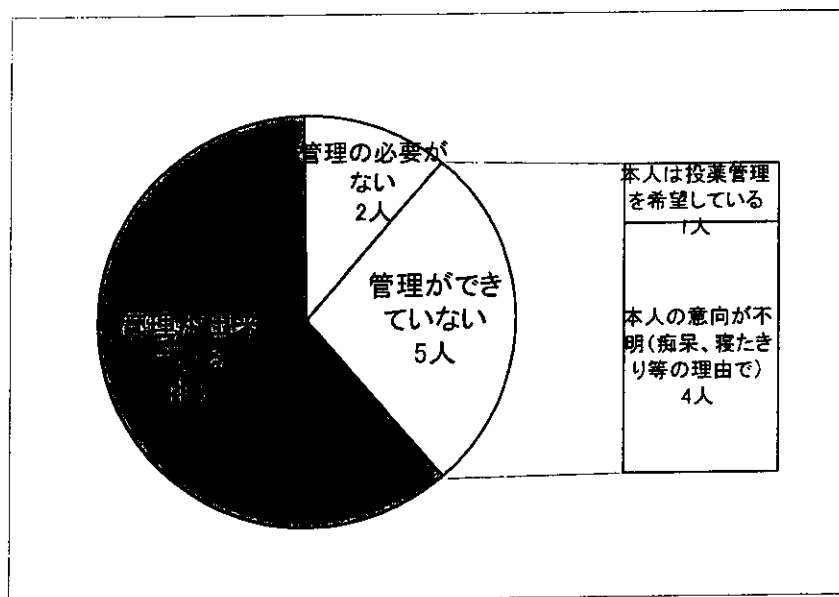


図 2.3.2 投薬管理に対する本人の意向

4) 機能訓練

対象者が機能訓練を受けているかどうかの質問に対して、全員が「受けていない」と判断した。また、「機能訓練を受けていない」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人の意向で機能訓練を受けていない」3名、「本人は機能訓練を希望している」1名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」12名、「本人の意向についての情報が無い」3名であった。

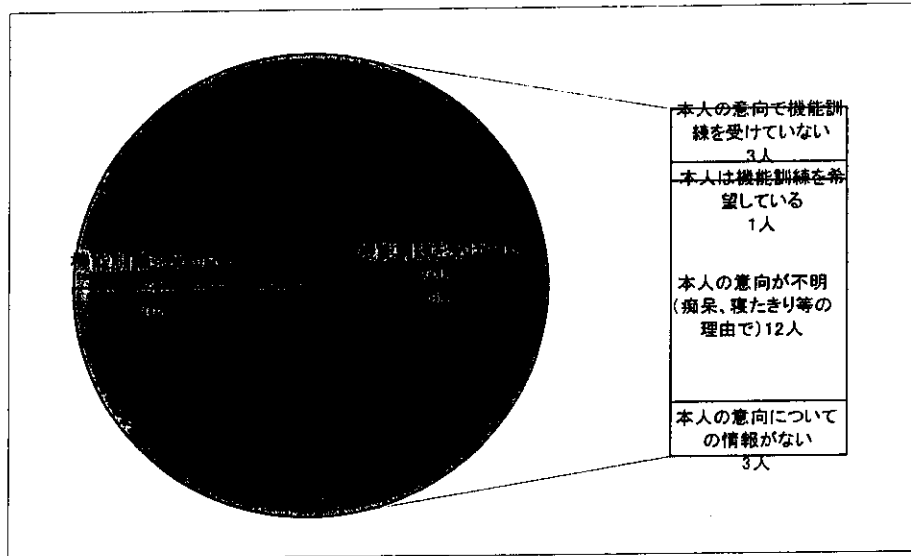


図 2.4 機能訓練の有無と本人の意向

5) オムツの使用

対象者がオムツの使用をしているかどうかの質問に対して、「使用している」と判断したのは 19 名中 13 名であった。また、「使用していない」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人の意向でオムツを使用している」2名、「本人はオムツの使用を希望していない」2名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」6名、「本人の意向についての情報が無い」2名であった。

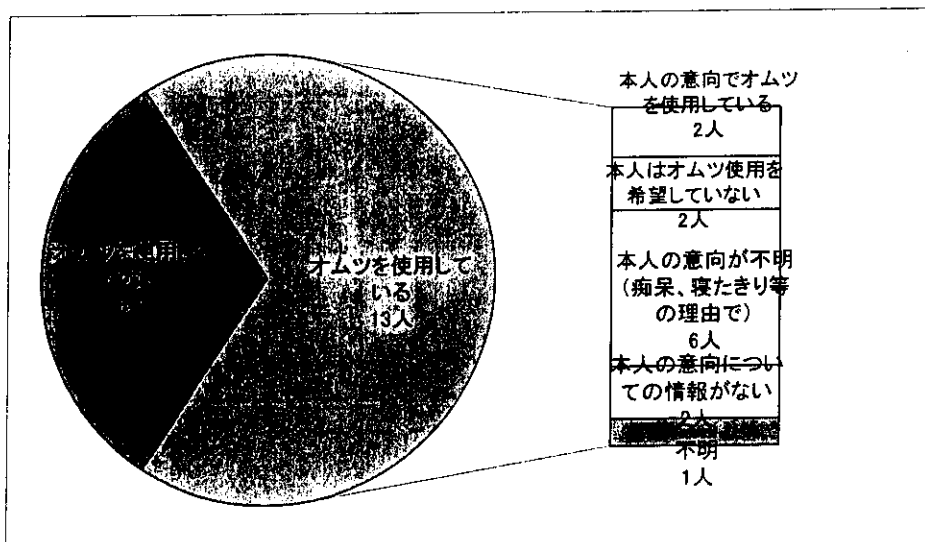


図 2.5 オムツの使用の有無と本人の意向

6) 排泄物の後始末

対象者が排泄物の後始末ができているどうかの質問に対して、「できている」と判断したのは19名中14名であった。また、「できていない」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は排泄物の後始末を希望している」1名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」2名であった。

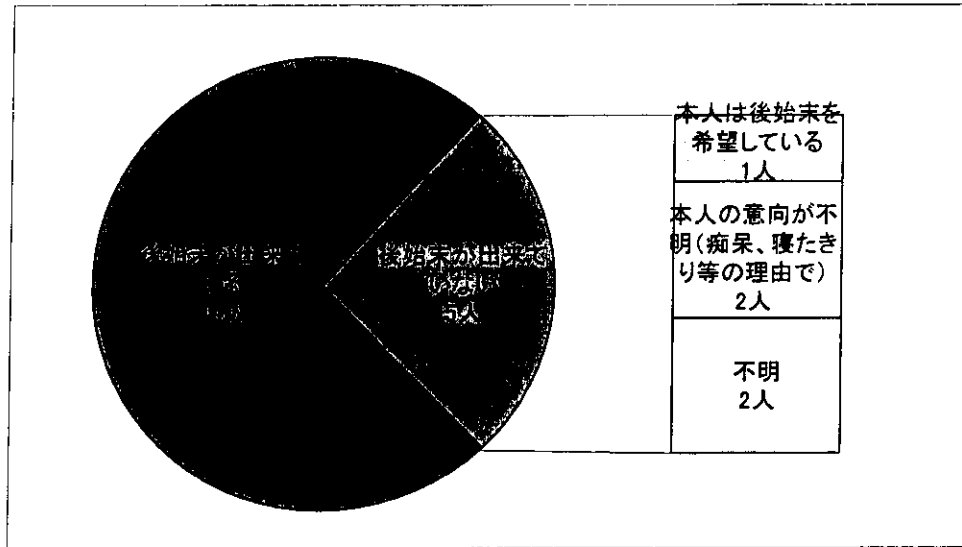


図 2.6 排泄物の後始末の有無と本人の意向

7) ひどい体臭について

対象者がひどい体臭をしているかどうかの質問に対して、「体臭がある」と判断したのは19名中3名であった。また、「体臭がある」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は体臭を気にしていない」1名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」2名であった。

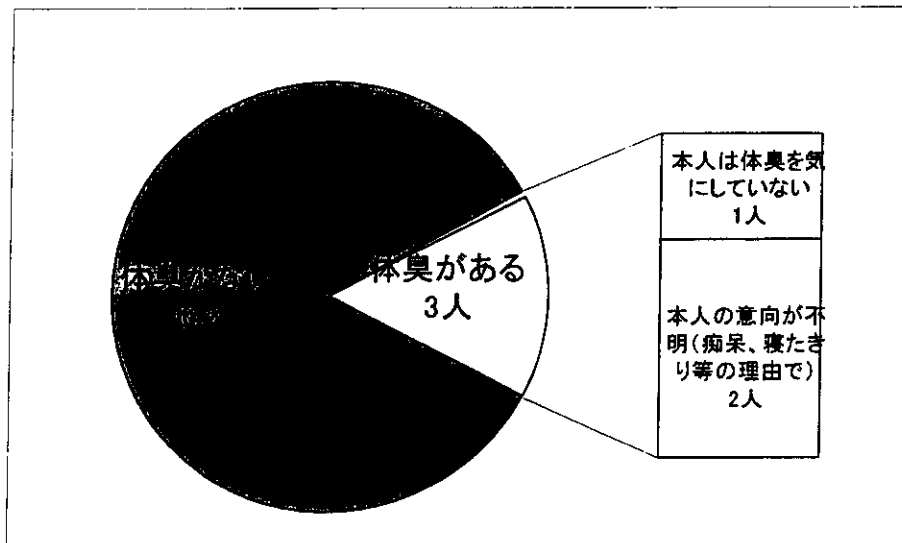


図 2.7 ひどい体臭の有無と本人の意向

8) 髪の毛の汚れ

対象者の髪が汚れているかどうかの質問に対して、「汚れている」と判断したのは 19 名中 5 名であった。また、「汚れている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は髪の毛の汚れを気にしていない」1 名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」3 名であった。

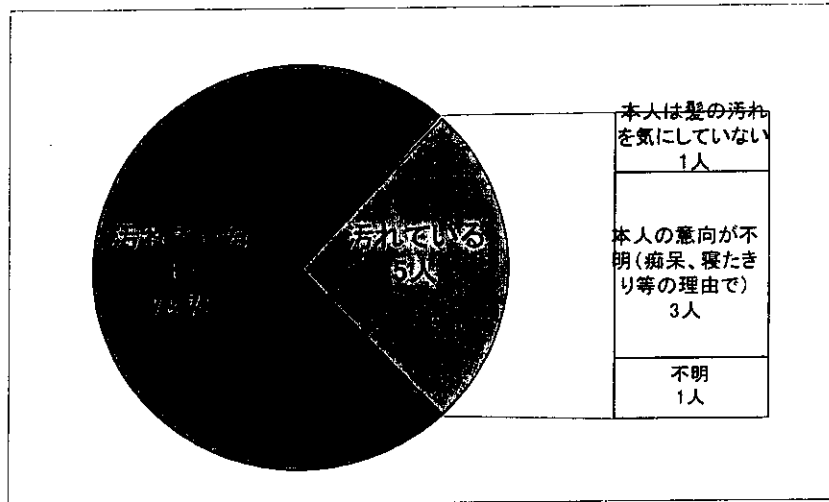


図 2.8 髪の毛の汚れの有無と本人の意向

9) ひどい口臭について

対象者がひどい口臭をしているかどうかの質問に対して、「口臭がある」と判断したのは 19 名中 3 名であった。また、「口臭がある」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は口臭を気にしていない」1 名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」2 名であった。

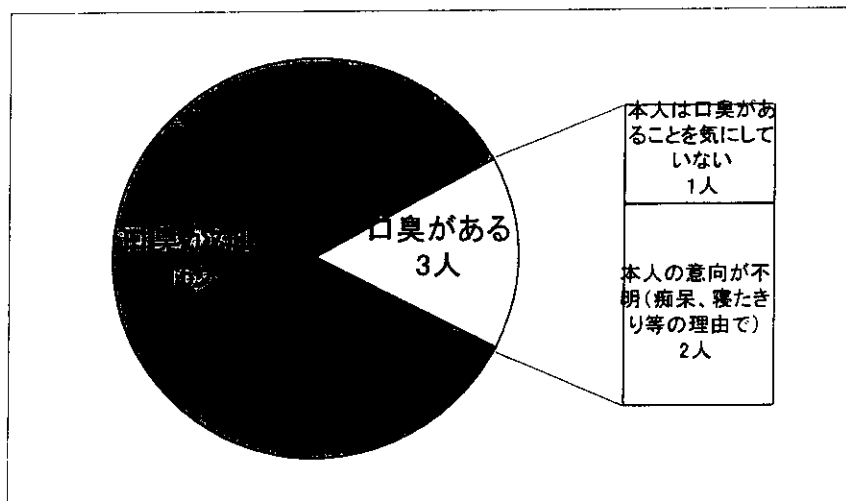


図 2.9 ひどい口臭の有無と本人の意向

10) 歯の汚れ

対象者の歯が汚れているかどうかの質問に対して、「汚れている」と判断したのは19名中5名であった。また、「汚れている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は歯の汚れを気にしていない」2名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」4名であった。

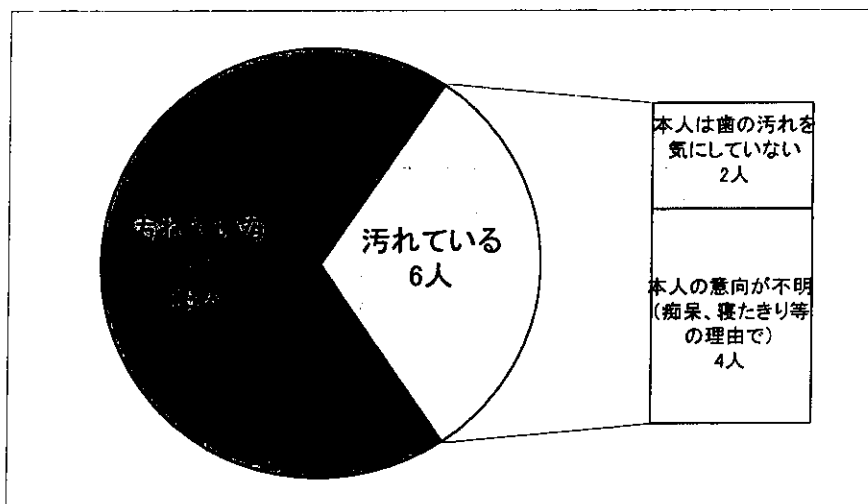


図 2.10 歯の汚れの有無と本人の意向

11) 髭剃りについて

対象者の髭が伸びたままになっているかどうかの質問に対して、「伸びたままになっている」と判断したのは19名中3名であった。また、「伸びたままになっている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は髭が伸びていることを気にしていない」2名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」1名であった。

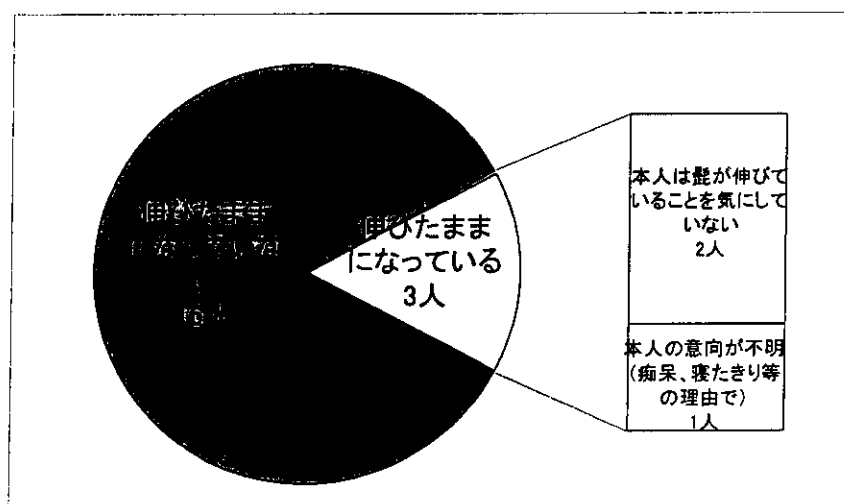


図 2.11 髭剃りの有無と本人の意向

1 2) 爪きりについて

対象者の爪が伸びたままになっているかどうかの質問に対して、「伸びたままになっている」と判断したのは19名中3名であった。また、「伸びたままになっている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は伸びていることを気にしていない」2名、「本人の意向についての情報が無い」1名であった。

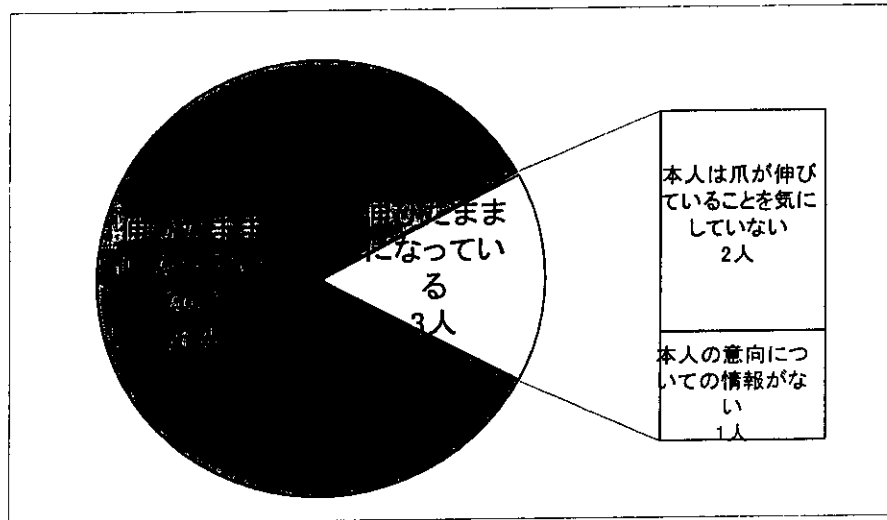


図 2.12 爪きりの有無と本人の意向

1 3) シーツの汚れの有無

対象者のシーツの汚れの有無に対して、「汚れている」と判断したのは19名中9名であった。また、「汚れている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は汚れていることを気にしていない」4名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」5名であった。

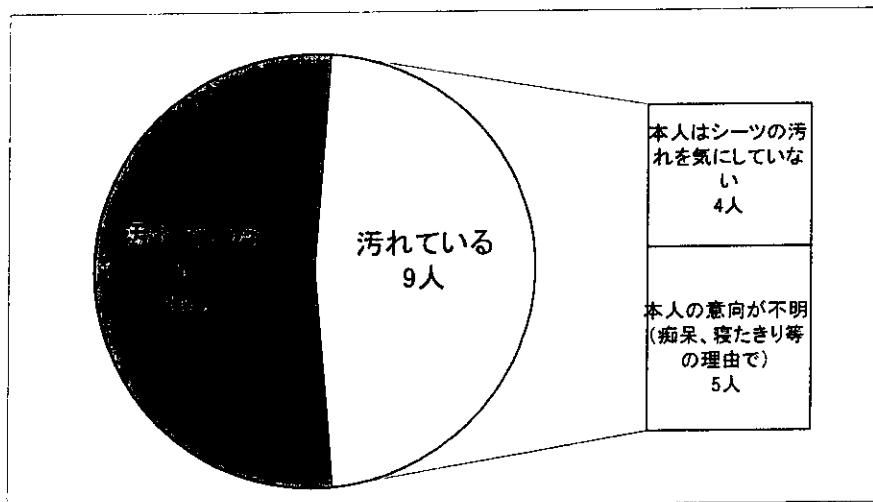


図 2.13 シーツの汚れの有無と本人の意向

14) 布団の汚れについて

対象者の布団が汚れたままになっているかどうかの質問に対して、「汚れまたは湿っている」と判断したのは19名中9名であった。また、「汚れまたは湿っている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人は汚れまたは湿っていることを気にしていない」3名、「本人の意向についての情報がない」6名であった。

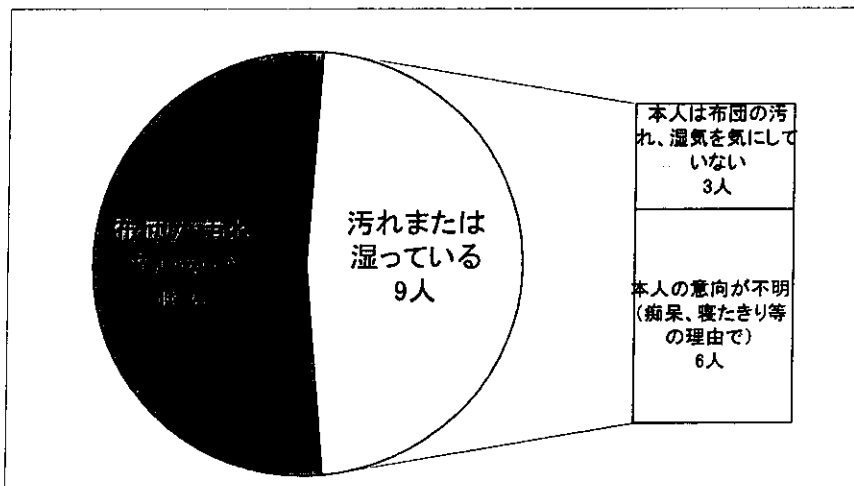


図 2.14 布団の汚れの有無と本人の意向

15) 同じ服を着ているかどうかについて

対象者がいつも同じ服を着ているかどうかについて、「同じ服を着ている」と判断したのは19名中7名であった。また、「同じ服を着ている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人の意向が不明 (痴呆、寝たきり等の理由で)」4名、「本人の意向についての情報がない」1名であった。

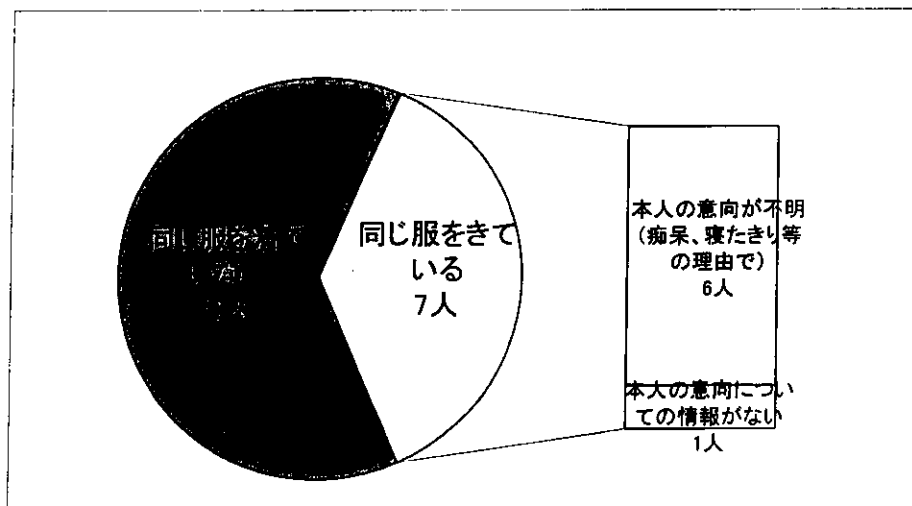


図 2.15 同じ服を着ているかどうかと本人の意向

16) 季節や気候に合った服装について

対象者が季節や気候に合った服装を着ているかどうかの質問に対して、「季節や気候に合った服装を着ていない」と判断したのは19名中10名であった。また、「季節や気候に合った服装を着ていない」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人の意向で季節や気候に合った服装を着ていない」2名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」8名であった。

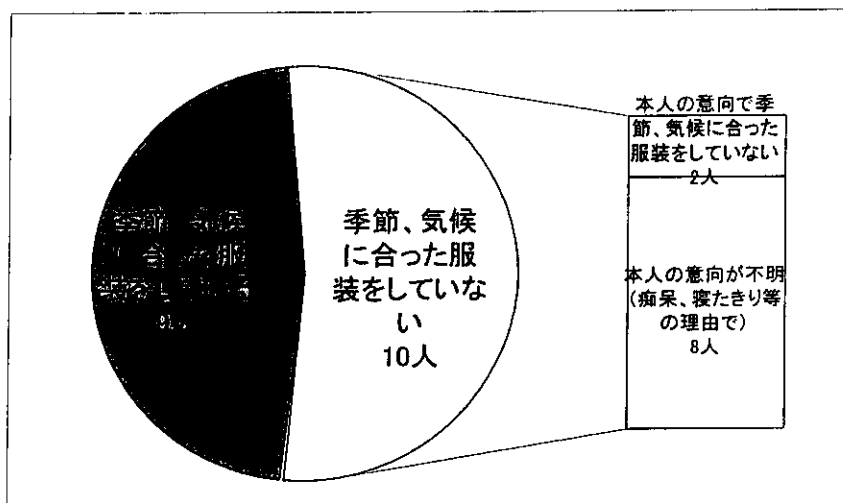


図 2.16 季節や気候に合った服装の有無と本人の意向

17) 汚れたままの服を着ているかどうかについて

対象者がいつも汚れたままの服を着ているかどうかについて、「汚れたままの服を着ている」と判断したのは19名中7名であった。また、「汚れたままの服を着ている」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人の意向で汚れたままの服を着ている」2人「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」5名であった。

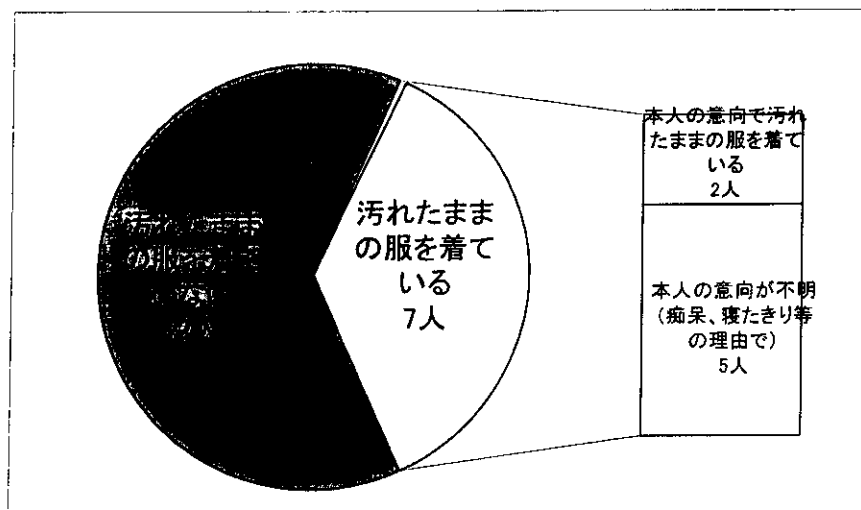


図 2.17 汚れたままの服を着ているかと本人の意向

18) 冷房、暖房設備を適切に使用しているかについて

対象者が冷房、暖房設備を適切に使用しているかについて、「冷房、暖房設備を適切に使用していない」と判断したのは19名中7名であった。また、「冷房、暖房設備を適切に使用していない」場合、そのことに対する本人の意向は、「本人の意向で冷房、暖房設備を適切に使用していない」1名、「本人の意向が不明（痴呆、寝たきり等の理由で）」6名、「本人の意向についての情報が無い」であった。

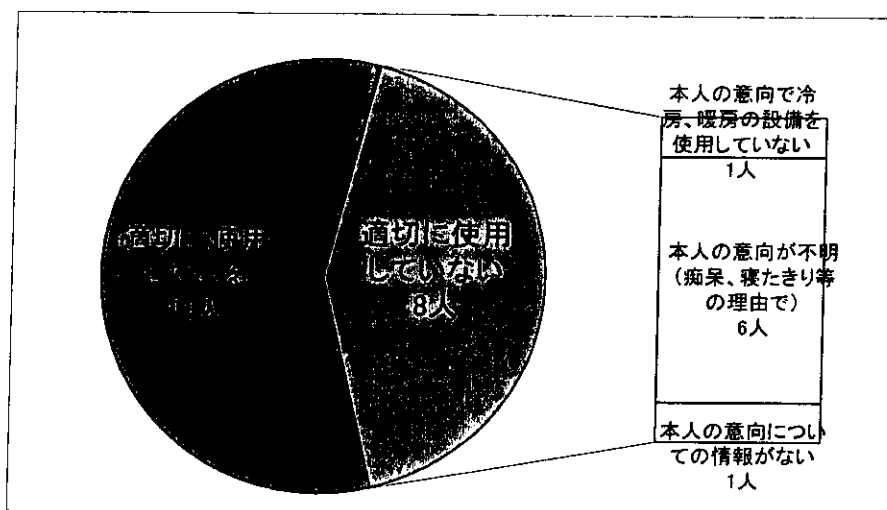


図 2.18 冷房、暖房設備を適切に使用しているかと本人の意向

19) 高齢者に対する暴言について

「暴言を受けたことがあるとの訴えがある」と回答したのは19名中7名（36.8%）であった。

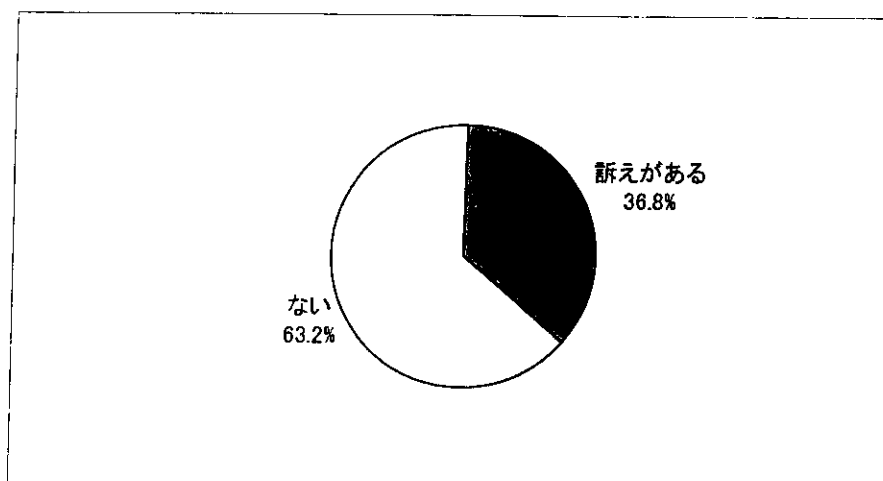


図 2.19 高齢者に対する暴言